



小澤 睦子
(碧 い 風)

寄贈芸術作品の今後は

新庁舎や文化会館で展示へ

質問 震災後に市に寄贈された作品の管理状況と今後の展示予定はどうか。

答弁 作品は国内をはじめ世界各地から200点あまり寄贈され、奇跡の一本松に関するものだけで50点を超える。作品の一部は、市長室や市庁舎1号棟2階に展示しているが、展示できないものは空調設備の整った倉庫で保管している。今後は、新庁舎1階の市民交流スペースや(仮

称)市民文化会館ロビー等での展示を考えている。

質問 寄贈してくださった方の思いを汲むと、早く、より多くの市民や観光客に見ていただきたいが、それ以前に何かのイベント等で展示することは考えていないのか。

答弁 来年の春には(仮称)市民文化会館も完成するため、小出しでの展示よりも節目での展示や常設する環境を考えている。

民泊事業の現状と見通しは

質問 民泊事業において受け入れ家庭、修学旅行生の実績はどうか。

答弁 受け入れ家庭数は現時点で302軒。昨年度受け入れ団体数は56件、延べ3188人(うち修学旅行生6校1695人)。

質問 今後の民泊事業の見通しはどうか。また、受け入れ家庭からの声をどのように

把握し、対応しているのか。

答弁 今年度は、修学旅行生12校、延べ4353人を受け入れ予定としている。年々、受け入れ人数は増加し、県内最大規模である。

今後民泊の良さをPRするとともに、民泊を学ぶ勉強会等を開催し、市民意識の機運醸成を図り、受け入れ体制等の充実に努めたい。

マルゴト陸前高田、SETを通じ、受け入れ家庭では体験メニューについて苦労しているとの情報を受けている。体験作業の選択肢として市内の事業所も巻き込んだ体験プログラムの紹介等を行っている。



一本松藍染めタペストリーの前で

質問 受け入れ家庭の新規開拓に不適當な勧誘を行っているか。

答弁 電話での協力依頼をしたことがあったようだが、再度、丁寧に事情を説明し、理解していただいている。



松田 修一
(碧 い 風)

まちづくりの経営理念は

一般企業の視点とは異なる

質問 地域経営という視点から経営理念が必要と考えるがどうか。

答弁 震災復興計画(平

える。

質問 地域の強みをどうなりわいに生かしていくか、経済的自立に向けた経営戦略は

国・県の財源のみで対応し、市の一般財源を要さない形で整備がなされ、市民が生活しやすい環境整備がなっている。

び戦略の共有が不十分で、市民総力によるまちづくりを推進する体制になっていないと考えるがどう認識しているか。また、共有促進を図る具体方策は。

答弁 まちづくり総合計画は、2年にわたり中高生や新成人アンケート、市民満足度調査、市政懇談会、パブリッ



市内中心部

成23年12月策定、それに継ぐ、まちづくり総合計画(平成31年3月策定)が理念にあたる。全市民が安心して暮らせる福祉、医療、教育等広範囲にわたる各種事業を進めるため、行政運営は、一般企業等の経営という視点での運営とは異なると考

答弁 震災後、全国及び世界との絆から生まれたつながりが本市の強み。ワタミオーガニックランドの整備、修学旅行民泊体験、大学・企業研修受入れ、国や県等による高田松原津波復興祈念公園オープンがその例である。

復興関連施設の整備では、

る。

本市の基幹産業は第1次産業。振興作物等のブランド化、6次産業化を進めながら企業誘致を図り、雇用創出に努める。

理念・戦略の共有は

質問 市民間で経営理念及

分かりやすい情報提供に努める。

クコメント、各種団体等との懇談会や市長と語る会等で意見を伺い、各種団体等で構成する策定委員会で検討の上、決定しており、共有が図られている。

今後さらに懇談及び意見聴取の機会を増やし、併せて広報やホームページ等を通じて



木村 聡
(とうほく 未来創生)

協働における行政の役割は

さまざまな機会を設け共に行う

質問 協働体制は長い年月をかけてつくられるもの。「行政と民間が共に育ち合う」という視点はどうか。

答弁 行政は最小コストで最大の成果を出すという考え方。また、市内にはまちづくりプレーヤーが少ないのが現状で、増やす・育てることが大事だ。

質問 市内の20を超えるNPOの活動と積極的に協働に取り組むのはどうか。

答弁 NPOによつては、経験と実績の差があり、全てのNPOに任せられるわけではない。しかし、まちづくりプレーヤーが増えていくことは重要であり、地域組織の強みを認識し合えるような場を設けたい。

地域交付金の有効利用は

質問 各コミセンへの地域交付金の評価をどう行うか。

答弁 各地区のコミセンを

通し、住民の声を聞くことで使い勝手の良い制度になるように反映していきたい。

質問 地域交付金には「地域の困りごと解決」と「地域を盛り上げる」使い道があると思うがどうか。

答弁 始まったばかりではあるが、まずはみんなで地域のことに話しかける機会が持たれると良い。最終的には地域課題を自主的に解決していく使い道。例えば、地域

で車を購入し、みんなで維持しながら活用を図るなどの使われ方がされると良い。

交通まちづくりは

質問 地域の交通はとても重要だ。その価値をさまざまな角度から評価できないか。

答弁 交通は福祉、観光、教育などにさまざまな効果をもたらす。効果の計測は難しいが検討していきたい。

質問 免許返納「前」の準備が大切だと思うがどうか。

答弁 返納前から積極的に公共交通を利用してもらうことが大切だ。横田町をモデルに、地域住民が主体となって新しい移動サービスを検討中



地域交付金利用の盆踊り(広田コミセン)

で、今後実証実験を行う予定。このような取り組みを周知し、早くから車以外の移動手段の利用を促したい。